日本共産党 市政ニュース

2018年9月27日 No.355 http://www.p-icp.ir 名古屋市中区三の丸三丁目 1 - 1 電話052 (972) 2071 FAX052 (972) 4190 発行・日本共産党名古屋市会議員団

議案外質問(9月25日) 江上博之議員

2022年天守閣木造化にこだわるな

「10月文化審は時間的に大変厳しい」(観光文化交流局長)

9月25日の本会議で江上博之議員は、2022年天守閣木造化の見直しを求めました。

10月の文化審に間に合わない

木造復元のためには文化 庁の許可がいり、そのため には5月か10月の文化審議会 (文化審)で基本計画書案 が認められる必要がありま す。市は今年10月の文化審 を経て許可を得るつもりで したが、前提となる石垣部 会との調整がとれていませ



ん。「10月文化審には案をはかれないと明言を」 との江上議員の追求に、観光文化交流局長(以下 局長)は「時間的に大変厳しい」と答えました。

現状変更許可取得までの予定(名古屋市)

時期	内容
	木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針決定
2018年 5月末	*基本計画策定 までの課題 大守木造復元の意義についての説明 基本計画に必要な石垣調査の取りまとめ 穴蔵石垣の保全と観覧者の安全性を考慮 した基礎構造の検討
7月	基本計画の策定。石垣調査取りまとめ 文化庁復元検討委員会(想定)
9月	現状変更許可申請(想定)
10月	文化審議会(想定)

まずは石垣の保全を

文化審に間に合わない理由は、特別史跡に指定されている石垣の損傷が激しく、その保全策について名古屋市と石垣部会とで意見が異なるからです。江上議員が「市は石垣の一部を保全し、天守閣木造後に本格的に保全する計画だが、石垣部会の指摘するとおり、まず石垣保全を最優先にすべき」と主張すると、局長は「石垣部会は本市の石垣保存方針では不十分と考えていると認識している」「詳細調査に基づいて、保存方針を立て適切な対応をとる」と答えました。

市みずから現天守を高く評価 文化財として存続する選択肢を

市は文化庁から「現天守を解体するにはなお議論を尽くす必要」を指摘されています。市が回答案(下図)を7月有識者による天守閣部会に提出したことを受け、江上議員は「現天守を文化財として残す選択肢を考えるべき」と主張しました。

現コンクリート天守の価値 (名古屋市)

- ○市民の熱意で再建した戦後復興の象徴「二度と焼失しないようにという願いも込められていた」
- ○史資料に基づき、焼失前と寸分違わぬ精密さで復元された外観、らせん階段や人造大理石の柱など近代建築技術の粋を集めた内装など、モダニズム建築としても文化財としての価値
- ○博物館機能

見直すつもり全くない(市長)

「2022年完成にこだわることが原因。計画の見直しを」と江上議員が求めても、河村市長は「計画を見直すつもりは全くありません」と述べるだけでした。

「22年完成 絶望的に」(日経) 「日程揺らぐ」(読売)

9月以降、新聞各社も2022木造化を疑問視する記事を載せています。 読売新聞 2018年9月27日

22年完成 絶望的に

日経新聞 2018年9月20日



